

令和7年度 児童朝会 講話

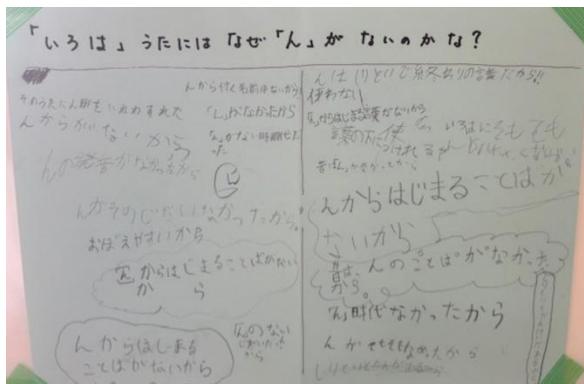
■令和7年 11月17日 №.18「かなもじ9」

今日は、インフルエンザがはやっていますので、チームスで行います。感染が広がらないよう、手洗い、うがい、休み時間には窓を開けて換気をしてくださいね。

今週のいいとこ見つけたよ（12）は、主体的清掃についてです。みなさんが、自分で「ここをきれいにしよう！」と決めてお掃除をするのですが、あちらこちらで、よくがんばっている姿を見かけます。

校長室前のすのこの下を掃除してくれているお友だちもいました。下駄箱や、運動場の洗面台、トイレの入り口など、本当に色々なところをきれいにしてくれていました。中でも、4年生の教室前の流しで、排水溝の中、ふたをピカピカしてくれているお友だちもいました。ありがとうございます。この調子で、どんどん学校をきれいにしていきましょう。なお、これからの方々として、①運動場の落ち葉拾い ②教室やろうかの床みがき ③下駄箱の上など ぞうきんも使ってやってみましょう。なお、外に面した窓は専門の業者の人がふくので、拭かなくて大丈夫です。なお、窓の下のところは、ぞうきんで拭いてもOKですよ。

さて、前回まで、「いろはうた」でかなもじのお話をしていました。あ～んまでのかな文字を1回ずつ使って、歌がつくられていたのですが、「ん」だけ使わていないのは、なぜだろうというお題でした。今回もたくさんのお友だちが回答をしていた



いただきました。ありがとうございました。今回もほとんどの人が何人かいきましたよ。

正解は昔のかな文字に「ん」がなかったからなのです。では、「ん」の音はどうなっていたのか？それは、違うかなもじが使われていたのです。何という文字が使われていたでしょう？

この昆虫の名前は？そうとんぼですね。でもこのとんぼの「ん」のかわりに、ある文字を入れても、ほとんど同じ音に聞こえるものがあります。そう「む」ですね。「とむぼ」はほとんど「とんぼ」に聞こえますね。このように、「ん」というかなもじのかわりに「む」を使っていたので、いろいろうたに「ん」がないのです。

現代では逆に「む」が「ん」になったりしています。例えば、「水を飲む」のうしろに「だら、出発するよ」という文をつけると、「水を飲んだら、出発するよ」となるなどです。

じつは、このいろはうたは、暗号にもなっています。表向きは、「あ～を」を1回ずつ使って、「悟りを開いたよ」という意味の歌ですが、ある読み方をすると、おそろしい言葉が浮かびあがってくるのです。どのように読んだら、恐ろしい言葉が浮かび上がってくるのでしょうか？

このいろは歌の作者な色々な説がありますが、今回は、柿本人麻呂の説をとります。人麻呂は今から1500年ぐらい前の飛鳥時代の貴族で、大変歌（短歌）を詠むのが上手な人でした。有名な歌として、百人一首にもおさめられています、「あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の 長々し夜を ひとりかも寝む」があります。

人麻呂は、飛鳥の都にすむ大金持ちのお役人でもありました。強い権力を持ち政治を動かしていました。しかし、あるとき友だちの裏切りにあります。何にも悪いことをしていないのに、人麻呂のせいにされて、島根県の山奥に追放されてしまうのです。そしてそのまま何十年と都に戻れず、とうとうおじいさんになってしまいました。

やがて、博磨は、罪も無いのに、何にも悪いこと

をしていないのに、こんな田舎で死んでしまう！
このくやしさを多くの人に訴えたい。と思うよう
になりました。

ただ、普通に「ぼくは悪いことはしていない、！」と発表しても、役人に「嘘をつくな」と叱られて終わってしまう…。そうだ、ぼくの得意な歌をつくろう。と、人麻呂は得意な歌に、自分の無実や悔しさを込めて、発表しようと考えました。それが「いろはうた」なのです。

しかも、普通にぼくは無実ですと詠んでも、先に述べた通り、役人にぎりつぶされてしまします。そこで、一見そには見えない「暗号」にして無実を訴える歌をつくろうと考えました。

普通に読んでもわからない、しかしある方法で読むと、恐ろしい恨みの言葉が浮かび上がってくる歌。いったいどう読めばいいのでしょうか？これをお題①とします。

お題②は、先にお話しました、主体的清掃に、ニックネームをつけようと思います。いいなと思うものを次から選んでください。

- A 主体的=proactive (プロアクティブ)
清掃 =cleaning (クリーニング)
この二つの言葉をあわせて
「パックンそうじ」はどうでしょうか？
- B この旭区のお花は？しょうぶですね。そこで「しょうぶ+そうじ」で「しょうそうじ」はどうでしょうか？
- C 大宮西小のおそうじなので、単純に
「にしつこそうじ」はどうでしょうか？
- D 自由に、みなさんの考えを聞かせてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。